

1. 自宅で出来る日々の勤経（お題目・道場観・勧請・開経偈）
2. 妙法蓮華経 方便品 第二
3. 欲令衆
4. 妙法蓮華経 如来寿量品 第十六
5. 祖訓
6. 唱題行
7. 寶塔偈「此経難持」
8. 回向
9. 四弘誓願

むじょうじじんみみょう ほう ひゃくせんまんごう あ たてまつ かた われいまけんもん
『無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭い奉ること難し。我今見聞し、

じゅじ
受持すること

え ねが によらい だいちぎ げ しごく だいじょう しぎ
を得たり。願わくは如来の第一義を解せん。至極の大乗、思議すべからず、

けんもんそくち
見聞触知。

みなぼだい ちか のうせん ほうしん しょせん ほっしん しきそう もんじ すなわ こ おうじん
皆菩提に近づく能詮は報身、所詮は法身、色相の文字は、即ち是れ応身な

むりょう くどく きょう あつ このゆえ じざい みょう くん みつ やく
り。無量の功德、皆この経に集まれり。是故に自在に冥に薫じ密に益す。

うちむ ちつみ めつ ぜん
有智無智罪を滅し善を生ず。

も しん も ほう とも じょう さんぜ しょぶつ じんじん みょうでん
若しは信、若しは謗、共に仏道を成ぜん(ず)。三世の諸仏、甚深の妙典な

しょうしょうせせ
り。生々世々、

ちぐう ちょうだい
値遇し頂戴せん』

によほうれんげきょう ほうべんぼん だいに
妙法蓮華經 方便品 第二

にーじーせーそん じゅうさんまいあんじょうにーきー ごーしゃりほつ しょーぶつちーえー
爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸仏智慧。

じんじんむーりょう ごーちーえーもん なんげーなんにゆう いっさいしやうもん ひやくしーぶつ
甚深無量。其智慧門。難解難入。一切声聞。辟支仏。

しょーふーのーちー しょーいーしゃーがー ぶつぞうしんごん ひやくせんまんのく むーしゆーしょーぶつ じんぎやうしょーぶつ
所不能知。所以者何。仏曾親近。百千万億。無数諸仏。尽行諸仏。

むーりやうどうほう ゆうみやうしやうじん みやうしやうふーもん じやうじゆーじんじん みーぞうらーほう ずいぎーしょーせつ
無量道法。勇猛精進。名称普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所説。

いーしゆーなんげー しゃりほつ ごーじゆうじやうぶつちーらい しゆーじゆーいんねん しゆーじゆーひーゆー こーえんごんきやう
意趣難解。舍利弗。吾從成仏已來。種種因縁。種種譬諭。広演言教。

むーしゆーほうべん いんどうしゆーじやう りやうりーしょーじやく しょーいーしゃーがー によーらいほうべん ちーけんはらみつ
無数方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如来方便。知見波羅蜜。

かいーぐーそく しゃりほつ によーらいちーけん こーだいじんのもん むーりやうむーげー りき むーしゆーいー ぜんじやう
皆已具足。舍利弗。如来知見。廣大深遠。無量無礙。力。無所畏。禪定。

げーだっ さんまい じんにゆうむーさい じよーじゆーいっさい みーぞうらーほう しゃりほつ によーらいのうしゆーじゆーふんべつ
解脱。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舍利弗。如来能種種分別。

ぎやうせつしよーほう ごんじーにゆうなん えっかーしゆーしん しゃりほつ しゆーようごんしー むーりやうむーへん
巧説諸法。言辞柔軟。悦可衆心。舍利弗。取要言之。無量無辺。

みーぞうらーほう ぶつしつじやうじゆー しー しゃりほつ ふーしゆーぶーせつ しょーいーしゃーがー ぶつしよーじやうじゆー
未曾有法。仏悉成就。止。舍利弗。不須復説。所以者何。仏所成就。

だいいちけーらー なんげーしーほう ゆいぶつよーぶつ ないのうくーじん しょーほうじつそう しょーいーしよーほう によーぜーそう
第一希有。難解之法。唯仏与仏。乃能究尽。諸法実相。所謂諸法。如是相。

によーぜーしやう によーぜーたい によーぜーりき によーぜーさー によーぜーいん によーぜーえん によーぜーかー によーぜーほう
如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。如是果。如是報。

によーぜーほんまつくーきやうとう
如是本末究竟等。 (以下 所謂諸法より あと二回繰り返す)

しょーいーしよーほう によーぜーそう によーぜーしやう によーぜーたい によーぜーりき によーぜーさー によーぜーいん によーぜーえん
所謂諸法。如是相。如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。

によーぜーかー によーぜーほう によーぜーほんまつくーきやうとう
如是果。如是報。如是本末究竟等。

しょーいーしよーほう によーぜーそう によーぜーしやう によーぜーたい によーぜーりき によーぜーさー によーぜーいん によーぜーえん
所謂諸法。如是相。如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。

によーぜーかー によーぜーほう によーぜーほんまつくーきやうとう
如是果。如是報。如是本末究竟等。

欲令衆

よくりようしゅう-じょう かいぶつち-けん しーとくしょうじょうこー しゅつげんの-せー よくじ-しゅう-じょう ぶつち-けんこー
欲令衆生。開仏知見。使得清浄故。出現於世。欲示衆生。仏知見故。

しゅつげんの-せー よくりようしゅう-じょう ご-ぶつち-けんこー しゅつげんの-せー よくりようしゅう-じょう
出現於世。欲令衆生。悟仏知見故。出現於世。欲令衆生。

にゅうぶつち-けんどうこー しゅつげんの-せー しゃりほつ ぜーいーしよ-ぶつ ゆいーいちだいじーいんねんこー
入仏知見道故。出現於世。舍利弗。是為諸仏。唯以一大事因縁故。

しゅつげんの-せー
出現於世。

さんがいむ-あん ゆーによーか-たく しゅう-く-じゅうまん じんか-ふ-いー じょうう-しょうろう びょうし-う-げん
三界無安 猶如火宅 衆苦充滿 甚可怖畏 常有生老 病死憂患

によーぜーとうかー しーねんふ-そく によーらいーりー さんがいか-たく じゃくねんげんごー あんじょ-りんやー
如是等火 熾然不息 如来已離 三界火宅 寂然閑居 安処林野

こんし-さんがい かいぜーがーうー ご-ちゅうしゅう-じょう しつぜーご-しー に-こんし-しよー た-しよ-げんなん
今此三界 皆是我有 其中衆生 悉是吾子 而今此処 多諸患難

ゆいがーいちにん のーいーく-ごー が-けんげ-しーしゅうー びくびくにー ぎっしょうしんじーによー
唯我一人 能為救護 我遣化四衆 比丘比丘尼 及清信士女

く-ようお-ほっしー いんどうしよ-しゅう-じょう しゅうしーりょうちようぼう にかくにんよっか-あく どうじょうぎゅうが-しゃく
供養於法師 引導諸衆生 集之令聽法 若人欲加惡 刀杖及瓦石

そっけんへんげ-にん いーしーさ-えいごー に-じ-ほうとうちゅう
則遣變化人 為之作衛護 爾時宝塔中。

すいだいおんじょう たんごんぜんざいぜんざい しゃかむにせーそん のーいーびようどうだいえー きょうぼ-さつぼう
出大音声。歎言善哉善哉。釈迦牟尼世尊。能以平等大慧。教菩薩法。

ぶっしよ-ご-ねん みようほっけ-きよう いーだいしゅう-せつ によーぜーによーぜー しゃかむにせーそん によーしよ-せつしゃー
仏所護念。妙法華經。為大衆説。如是如是。釈迦牟尼世尊。如所説者。

かいぜーしんじつ
皆是眞実。

妙法蓮華經

如來壽量品

第十六

じーがーとくぶつらい 自我得仏来	しよーきょうしよーこっしゅー 所經諸劫数	むーりょうひやくせんまん 無量百千万	おくさいあーそうぎー 億載阿僧祇	じょうせつぼうきょうけー 常說法教化
むーしゅーおくしゅーじょう 無数億衆生	りょうにゆうおーぶつどう 令入於仏道	にーらいむーりょうこう 爾來無量劫	いーどーしゅーじょうこー 為度衆生故	ほうべんげんねーはん 方便現涅槃
にーじつふーめつどー 而実不滅度	じょうじゅうしーせつぼう 常住此說法	がーじょうじゅうおーしー 我常住於此	いーしよーじんずうりき 以諸神通力	りょうてんどうしゅーじょう 令顛倒衆生
すいごんにーふーけん 雖近而不見	しゅーけんがーめつどー 衆見我滅度	こうくーようしゃーりー 廣供養舍利	げんかいてーれんぼー 咸皆懷恋慕	にーしょうかつごうしん 而生渴仰心
しゅーじょうきーしんぶく 衆生既信伏	しちじきーにゆうなん 質直意柔軟	いっしんよくけんぶつ 一心欲見仏	ふーじーしゃくしんみょう 不自惜身命	じーがーぎゆうしゅーそう 時我及衆僧
くーしゅつりょうじゅーせん 俱出靈鷲山	がーじーごーしゅーじょう 我時語衆生	じょうざいしーふーめつ 常在此不滅	いーほうべんりきこー 以方便力故	げんうーめつふーめつ 現有滅不滅
よーこくうーしゅーじょう 余国有衆生	くーぎょうしんぎょうしゃー 恭敬信樂者	がーぶーおーひーちゅう 我復於彼中	いーせつむーじょうほう 為說無上法	にょーとうふーもんしー 汝等不聞此
たんにーがーめつどー 但謂我滅度	がーけんしよーしゅーじょう 我見諸衆生	もつざいおーくーかい 没在於苦海	こーふーいーげんしん 故不為現身	りょうごーしょうかつごう 令其生渴仰
いんごーしんれんぼー 因其心恋慕	ないしゅついーせつぼう 乃出為說法	じんずうりきによーぜー 神通力如是	おーあーそうぎーこう 於阿僧祇劫	じょうざいりょうじゅーせん 常在靈鷲山
ぎゆうよーしよーじゅうしよー 及余諸住処	しゅーじょうけんこうじん 衆生見劫尽	だいかーしよーしょうじー 大火所燒時	がーしーどーあんのん 我此土安穩	てんにんじょうじゅうまん 天人常充滿
おんりんしよーどうかく 園林諸堂閣	しゅーじゅーほうしょうごん 種種宝莊嚴	ほうじゅーたーけーかー 宝樹多花果	しゅーじょうしよーゆうらく 衆生所遊樂	しよーてんきやくてんくー 諸天擊天鼓
じょうさーしゅーぎーがく 常作衆伎樂	うーまんだーらーけー 雨曼陀羅華	さんぶつぎゆうだいしゅー 散仏及大衆	がーじょうどーふーきー 我淨土不毀	にーしゅーけんしょうじん 而衆見燒尽
うーふーしよーくーのう 憂怖諸苦惱	にょーぜーしつじゅうまん 如是悉充滿	ぜーしよーざいしゅーじょう 是諸罪衆生	いーあくごういんねん 以惡業因緣	かーあーそうぎーこう 過阿僧祇劫
ふーもんさんぼうみょう 不聞三宝名	しよーうーしゅーくーどく 諸有修功德	にゆうわーしちじきしゃー 柔和質直者	そっかいけんがーしん 則皆見我身	ざいしーにーせつぼう 在此而說法
わくじーいーしーしゅー 或時為此衆	せつぶつじゅーむーりょう 説仏壽無量	くーないけんぶっしゃー 久乃見仏者	いーせつぶつなんちー 為説仏難值	がーちーりきによーぜー 我智力如是
えーこうしょうむーりょう 慧光照無量	じゅーみょうむーしゅーこう 壽命無数劫	くーしゅーごうしよーとく 久修業所得	にょーとううーちーしゃー 汝等有智者	もつどーしーしょうぎー 勿於此生疑
とうだんりょうようじん 当断令永尽	ぶつごーじつぷーこー 仏語実不虛	にょーいーぜんほうべん 如医善方便	いーじーおうしーこー 為治狂子故	じつざいにーごんしー 實在而言死

妙法蓮華經

如來壽量品

第十六

むーのうせつこーもう
無能説虚妄

がーやくいーせーぶー
我亦為世父

くーしょーくーげんしゃー
救諸苦患者

いーぼんぶーてんどう
為凡夫顛倒

じつざいにーごんめつ
實在而言滅

いーじょうけんがーこー
以常見我故

にーしょうきょうしーしん
而生憍恣心

ほういつじゃくごーよく
放逸著五欲

だーおーあくどうちゅう
墮於惡道中

がーじょうちーしゅーじょう
我常知衆生

ぎょうどうふーぎょうどう
行道不行道

ずいおうしょーかーどー
隨応所可度

いーせつしゅーじゅーほう
為説種種法

まいじーさーぜーねん
每自作是念

いーがーりょうしゅーじょう
以何令衆生

とくにゅうむーじょうどう
得入無上道

そくじょうじゅーぶっしん
速成就仏身

そくん 祖訓

日蓮聖人の残された言葉を拝読します。

にちれんしょうにんごみょうはん かいもくしょう
日蓮聖人御妙判 「開目抄」

仏道こそ父母の後世を扶くれば聖賢の名はあるべけれ。
しかれども法華経已前等の大小乗の経宗は自身の得道な
おかなひがたし。いかにいわんや父母をや。ただ文のみ
あて義なし。今法華経の時こそ女人成仏の時、悲母の成
仏も顕われ、達多の悪人成仏の時 慈父の成仏も顕わる
れ。この経は内典の孝経なり。

しょうだいぎょう

唱題行

お釈迦様の真意が込められたお題目「南無妙法蓮華経」を大きな声で唱えます。
十回 二十回 百回と心ゆくまで唱えて下さい。この時間はとても大切です。
集中して、雑念を払い、一心にお題目「南無妙法蓮華経」を唱えましょう。

南無妙法蓮華経……

南無妙法蓮華経……

南無妙法蓮華経……

寶塔偈「此經難持」

【真読】

しきょうなんじ 此經難持	にやくざんじしゃ 若暫持者	がそくかんぎ 我即歡喜	しよぶつやくねん 諸仏亦然	によぜしにん 如是之人
しよぶつしよたん 諸仏所歎	ぜそくゆうみょう 是則勇猛	ぜそくしょうじん 是則精進	ぜみょうじかい 是名持戒	ぎょうずだしゃ 行頭陀者
そくいしつとく 則為疾得	むじょうぶつどう 無上仏道	のうおらいせ 能於來世	どくじしきょう 讀持此經	ぜしんぶっし 是真佛子
じゅうじゅんぜんじ 住淳善地	ぶつめつどご 佛滅度後	のうげごぎ 能解其義	ぜしよてんにん 是諸天人	せけんしげん 世間之眼
おくいせ 於恐懼世	のうしゅゆうせつ 能須臾說	いっさいてんにん 一切天人	かいはうくよう 皆應供養	

【訓読】

この經はたもちがたし 若し^も暫^{しばら}くもたもつ者は 我^{われ}
 即ち^{すなわ}歡喜^{かんぎ}す 諸^{しよぶつ}佛も亦然^{またしか}なり かくの如^{ごと}き人は 諸^{しよ}
 佛^{ぶつ}の歎^ほめ給^{たも}う所^{すなわ}なり これ則^{すなわ}ち勇猛^{ゆうみょう}なり これ則^{すなわ}ち
 精進^{しょうじん}なり これを戒^{かい}をたもち 頭陀^{ずだ}を行^{ぎよう}ずる者^{もの}とな
 づく即ち^{すなわ}これ疾^とく 無上^{むじょう}の佛道^{ぶつどう}を得^よたり 能^{らい}く來世^{いせ}
 に於^こいて 此^この經^こを讀^よみたもたんは これ真^まの佛子^{ぶっし}
 淳善^{じゅんぜん}の地^じに住^{じゅう}するなり 佛^{ぶつ}の滅度^{めつど}の後に 能^よく其^その
 義^ぎを解^げせんは これ諸^{もろもろ}々の天人^{せけん} 世間^{まなこ}の眼^くなり 恐^く
 畏^いの世^よに於^こいて 能^よく須臾^{しゅゆう}も說^とかんは 一切^{いっさい}の天人^{てんにん}
 皆^{みな}供養^{くうやう}すべし

回向

仏様に向かい ご先祖様の供養をし、そして人々の幸せや平和を祈ります。

仏祖三宝に感謝し、ご先祖様に回向し、心の闇を照らし、心を清浄に、そして体の健康を祈り、己に打ち勝つ精神を持てますよう祈願致します。

謹^{つつし}み敬^{おや}って読^よ誦^{じゆ}し奉^{ほう}る一^{いち}乗^{じやう}妙^{みやう}法^{ぽう}蓮^{れん}華^げ經^{きやう} 唱^{たてまつ}え奉^{ほう}る御^{おん}題目^{だいもく}

等^{あつむ} 鳩^{とこ}る処^{くどく}の功^く徳^{とく}を以^{もつ}つて 仏^{ぶつ}祖^そ三^{さん}宝^{ぼう} 諸^{しよ}天^{てん}善^{ぜん}神^{じん} 哀^{あい}愍^{みん}

納^{のう}受^{じゆ}し給^{たま}え。仰^{あお}ぎ願^{ねが}わくは 天^{てん}地^ち清^{せい}寧^{ねい} 妙^{みやう}法^{ぽう}広^{こう}布^ふ 天^{てん}下^か

泰^{たい}平^{へい} 世^せ界^{かい}平^{へい}和^わ 国^{こく}土^ど安^{あん}穩^{のん} 五^ご穀^{こく}豊^{ほう}穰^{じやう} 国^{こく}家^か安^{あん}全^{ぜん} 万^{ばん}民^{みん}

快^け楽^{らく}。 「 」 家^けを^がし^ては家^け内^{ない}安^{あん}全^{ぜん} 身^{しん}体^{たい}健^{けん}全^{ぜん}なら

しめ給^{たま}え。家^け族^{ぞく}の面^{めん}々^々 無^む始^し以^い来^{らい}の謗^{ぼう}法^{ぽう}六^{ろく}根^{こん}懺^{ざん}悔^{かい}罪^{ざい}障^{じやう}消^{しょう}

滅^{めつ} 少^{しょう}病^{びやう}少^{しょう}惱^{のう} 気^け力^{りき}安^{あん}楽^{らく}に^{して} 魔^ま事^じ魔^ま障^{じやう}のさ^わり^{なく}

一^{いっ}切^{さい}円^{えん}満^{まん} 吉^{きつ}祥^{じやう}成^{じやう}就^{じゆ}ならしめ給^{たま}え。仰^{あお}ぐ処^{とこ}は釈^{しゃ}迦^か仏^{ぶつ} 信^{しん}

ずる法^ほは法^ほ華^け經^{きやう}なり 南^{なん}無^む妙^{みやう}法^{ぽう}蓮^{れん}華^げ經^{きやう}は 身^{しん}と心^{しん}の病^{やまい}を

癒^いす良^{ろう}薬^{やく}なり 成^{じやう}仏^{ぶつ}の宝^{ほう}珠^{じゆ}に^{して}無^む明^{みやう}の闇^{あん}を払^はい 慈^じ悲^ひ

の光^{くわん}を照^{くどく}らす功^く徳^{とく}あり 眼^{げん}耳^に鼻^び舌^{ぜつ}身^{しん}意^い 六^{ろく}根^{こん}清^{せい}浄^{じやう}の者^{もの}也^{なり}

と。別^{べつ}して願^{ねが}わくは 「 」 家^け先^{せん}祖^ぞ代^{だい}々^々の諸^{しよ}精^{しやう}霊^{りやう}

無^{だん}縁^めの霊^{かい} 水^{りく}子^{とく}の霊^{らく}等^ら 断^{だん}命^{めい}開^{かい}悟^ご 離^り苦^{くとく}得^{とく}楽^{らく} 妙^{みやう}法^{ぽう}経^{きやう}力^{りき}

即^{そく}身^{しん}成^{じやう}仏^{ぶつ} 乃^{ない}至^し法^{ぽう}界^{かい} 平^{へい}等^{とう}利^り益^い 南^{なん}無^む妙^{みやう}法^{ぽう}蓮^{れん}華^げ經^{きやう}

し ぐ せ い が ん

四弘誓願

仏様の教え「法華経」を信仰し、菩薩の道を志す者の四つの誓いを唱えます。

仏様の教えを伝えるように精進します。煩惱を滅するよう精進します。

仏様の法門を会得できるように精進します。仏道修行に精進します。という意味です。

しゅじょうむへんせいがんど

衆生無辺誓願度

ぶつどうむじょうせいがんじょう

仏道無上誓願成

ぼんのうむしゅせいがんだん

煩惱無数誓願断

ほうもんむじんせいがんち

法門無尽誓願知

お題目三唱

お題目を三回唱えます。皆様一緒にお唱えします。

なむみょうほうれんげきょう

南無妙法蓮華経

なむみょうほうれんげきょう

南無妙法蓮華経

なむみょうほうれんげきょう

南無妙法蓮華経